

山梨県立大学 国際政策学部 国際コミュニケーションコース 3つの方針

理念と目的

グローバルな視点に立って地域社会の問題を考え、地域の自然、文化、産業を豊かにして地域の活力をつくる人材、アジアをはじめとする世界各国と地域社会をつなぎ、平和で豊かな国際社会の形成に貢献できる人材を育成する。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

国際化に対応する幅広い教養を身につけ、多様な文化や価値観を知り、グローバルな視点に立って国際社会や地域社会の課題に向き合い、だれ一人取り残さない社会の実現に向けて主体的に取り組む協働できる人物

学士力 「学士専門力」		学修成果	測定方法
①	コース専門力	専門分野に関する基礎的な知識・技能を身につけている。 ①国際化に対応する幅広い教養を身につけ活用することができる。 ②多様な文化や価値観を理解することができる。	・カリキュラムマップにて示す「コース専門力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「コース専門力」に係る科目の成績評価
②	外国語活用能力	国際的な活動の場において、外国語を用いてコミュニケーションを問題なくとることができる。英語については、ビジネスの場やアカデミックな場での将来的な活躍の基盤となる知識と能力を身につけている。	・カリキュラムマップにて示す「外国語活用能力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「外国語活用能力」に係る科目の成績評価
③	汎用的能力	大学での学修および社会生活の基盤として求められる能力を身につけている。 ・論理的・批判的に思考することができる。 ・自らの意見を文章および口頭で表現することができる。 ・他者の意見を聞き、相互理解を図ることができる。 ・必要な情報を収集し、内容を正確に理解することができる。 ・ICTに関する知識・モラル・スキルを修得し適切に活用することができる。	・カリキュラムマップにて示す「汎用的能力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「汎用的能力」に係る科目の成績評価
④	専門的問題解決能力	社会的または学術的課題について、各自の専門性に基き自ら問いを立て、適切な方法を選択し、問題解決に取り組むことができる。	・カリキュラムマップにて示す「専門的問題解決能力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「専門的問題解決能力」に係る科目の成績評価
⑤	能動的実践力	多様な他者を理解し、協働的・主体的に行動することができる。	・カリキュラムマップにて示す「能動的実践力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「能動的実践力」に係る科目の成績評価口

卒業判定基準 (学部の表に記載)

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

<総合性に関する方針>
 国際コミュニケーションコースには、国際化に対応する幅広い教養を身につけ、多様な文化や価値観を知り、グローバルな視点に立って国際社会や地域社会の課題に向き合い、だれ一人取り残さない社会の実現に向けて主体的に取り組む協働できる人物を育成するために必要な科目を配置する。

<順次性に関する方針>
 1年次には、学修の基盤となる汎用的能力と基礎知識を身につけ、学部で学ぶべきことの全体の見通しと理解を深めることができるように、導入科目および学部教養科目を配置する。
 2年次には、専門領域の基礎知識を身につけることができるように、コース基礎科目を配置する。
 3年次には、専門領域を実践的な課題と結びつけて理解することができるように、コース展開科目を配置する。
 4年次には、専門的問題解決能力を養成するために国際政策演習（卒業研究）を配置する。
 各年次には、汎用的能力、能動的実践力、専門的問題解決能力を順次養成するために演習科目を配置する。

<実施に関する方針>
 能動的実践力を養成するため、PBLやアクティブ・ラーニングを重視し、少人数演習・能動的学修が各学年で実現できるようにする。
 外国語活用能力を高めるために、海外での多様な学修機会や外国語を用いた講義科目を設ける。

入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

<入学前能力>
 国際政策学部は、ローカルならびにグローバルな視点を携え、みずからの問題意識を社会との関係において育み、問題の発見や提起を含めた一連の問題解決に挑もうとする人間を求めています。そのため、以下の3点で入学前能力を評価します。

【知識・技能】高等学校の各教科・科目を幅広く学習し、均衡のとれた基礎学力を身に付けている
 【思考力・判断力・表現力】様々な事象を自ら考え、それを自分の言葉で表現することができる
 【主体性・多様性・協働性】多様性を尊重しながら他者対話し、創造的な問題解決に主体的に取り組むことができる

<評価方法>
 入学者選抜においては、多様な人材を選抜するため、一般選抜・学校推薦型選抜・特別選抜（海外帰国生選抜・社会人選抜・外国人留学生選抜）・3年次編入学を実施します。
 各選抜においては、入学前能力を測定するために、提出書類、個別学力検査等によって評価します。

・一般選抜においては、大学入学共通テストと個別学力検査によって評価します。大学入学共通テストでは国語・外国語を中心とした基礎学力を評価します。個別学力検査では主に主体性・多様性・協働性を評価します。
 ・学校推薦型選抜・特別選抜・3年次編入学においては、提出書類と個別学力検査によって評価します。個別学力検査では、小論文によって主に思考力・判断力・表現力を、面接によって主に主体性・多様性・協働性を評価します。

<入学後能力>
 本学部で学修する内容について関心を持ち、主体的な学修への参画によって、学位授与方針に定められた資質能力を身に付けることができる。